

第101回北海道・標津研修会の活動が 2月14日(火)の釧路新聞に掲載されました！

2017年2月14日(火) 釧路新聞



留学生視点で 訪日旅客対策



外国語会話帳を使って商品の
値段などを尋ねる留学生

標津会話帳の効果検証

インバウンド(訪日旅客)対策に留学生の視点を生かすプロジェクトが13日、標津町内で行われ、以前作成された外国語会話帳の効果検証を実施した。

町観光協会が2015年度から3カ年で進める「留学生と創る外国人受け入れ基盤整備事業」の一環。同町は共立国際交流奨学財団(東京)が主催する留学生向けの研修旅行を年2回受け入れており、今回は中国や台湾などから学生18人が参加。8～13日の6日間、町内や近隣地域で雪遊びやスキーを楽しんだほか、ホームステイを通じて日本の文化を学んだ。

この日、学生は2班に分かれ、標津漁協直売所などを訪問。来町した留学生の疑問をベースに、昨年3月に完成した会話帳を実際に

使用し、不足やニュアンスなどの改善点を確認した。今回の検証結果は、今後の改訂に反映させる。

台湾出身で都内の日本語学校に通うホアン・ネン・チユウさん(26)は「初めての北海道は思ったより暖かかった。将来は日本語を生かしてマスコミ関係の仕事をしたい」と笑顔を見せていた。

(原田未央)